

【第1部 12:30~14:05】 講義 『研究計画を立てる』

日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学臨床部門 講師 小田民美先生に、研究プロセスのうちの主に『研究計画の立案・データ収集・分析』についてご講演いただいた。

具体的に研究を進める上で必要となる、各研究デザインの概要、そのデザインに向いているデータ収集法、量的研究と質的研究の特徴、調査方法、データの種類から、データ収集後の解析の段取りやデータの加工の種類までを広く説明していただいた。

特に今回は調査研究で用いることの多い「インタビュー法・面接法・質問紙法・観察法」について、各利点欠点の説明や質問文・回答選択肢作成時の注意点について詳しく説明していただき、その上で後半のグループワークに臨んだ。

グループワークは3人ずつのグループを作り、「質問紙の作成」と「予備調査の実施」という二つの課題に取り組んだ。

「質問紙の作成」の研究課題は【臨床動物看護師が動物看護研究を行う上で、何を悩んでいるのか、何を知りたいのか】で、研究目的は【動物看護研究における臨床動物看護師が抱える問題を明らかにすること】であった。各グループともに活発な意見を出し合い質問紙の作成に取り組んでいた。

続いて「予備調査の実施」として各グループが作成した質問紙を交換し、実際に回答し、分かりにくかった設問や不足がなかったか、等を記入して意見交換を行った。

小田先生自身も研究の時間をとりにくい臨床現場に身を置かれており、講義の最後には研究を進める上でのポイントとして「業務として実践・継続が可能なものを行うと良い」というアドバイスや「研究計画書が重要である」というお言葉をいただき、研究とその先の学会発表や論文作成の後押しとなる貴重な時間となった。

参加者の感想

- 習った内容をすぐにグループワークで実践したことにより理解が深まった。
- グループワークでは身近なテーマを選んでいただいたので、活発な意見が出て雰囲気良かった。
- 質問紙作成の具体的方法がわかったことで、自身の研究へのモチベーションが高まった。

【第2部 14:15~15:45】 講義 『ディスカッション?』

大阪府立大学 生命環境科学域 獣医臨床センター 島村俊介先生に主に学会での議論

の交わり方や論理的思考についてご講演いただいた。

学会は意見交換の場であり、生きた会話を行うことで課題を解決することやその分野の向上発達を目的としているが、意見交換の方法を間違えるとその目的を果たすことができなくなる。

講義では意見交換の基本はコミュニケーションであり3つのルール「論点を明確にする」「敬意を忘れない」「利己的にならない」があることを説明していただいた。

特に「論点を明確にする」ことは最大のルールということで、発表者・質問者・司会者（座長）3者それぞれが論点を意識することがディスカッションを成り立たせ問題解決に近づく、ということが強調された。中でも司会者は発表者と質問者の論点を明確化し整理し、ディスカッションのベースを作る重要な役割であることがわかった。

また、論点を正確に伝えるためのロジカルシンキングについても説明があり、書いて頭の中を整理する事、話す順番や話すときにエビデンスを加えることなどの工夫を知ることができた。

学会に多くかかわり司会経験も豊富な島村先生から学会での議論参加の心得を聞いたことは有意義であり、積極的な参加を後押しする時間となった。

参加者の感想

- 正直論点を意識して学会参加できていなかったもので、大事なことを教えていただけたと思う。
- 次回からの学会参加の意識が変わる内容であった。
- 日頃の会話にも役立つ内容であり、ロジカルシンキングを身につけたいと思った。

【第3部 15:55~17:25】

意見交換会 『自己紹介と院内において特にやりがいを感じる仕事と出来事』

第2部の議論の交わり方の講義を受け、意見交換の練習の時間とした。

司会役を一人おき、参加者が順番にテーマに沿った話を口頭やスライドを用いて発表し、その後質疑応答の時間を作り発表内容について話し合った。

各自のやりがいは一概ではなく多様性のある発表内容であったが、皆が質問をし、司会者も随時コメントをし、発表者と発表者の言わんとする事を知ろうとする努力が感じられ、一体感が感じられる時間であった。

参加者の感想

- 発表は発表者だけでなく皆で作っていき、新たな発見や方法が見つかっていくものだと実感できた。

- 発表者の論点を意識して短時間で質問を考えるのは難しかった。
- 発表は緊張したが話す練習になったし、質疑応答では皆が自分のことを知ろうとしてくれて、優しさを感じられて嬉しかった。

【結び】

定期勉強会も7回目を迎え、今回は、参加者の求めているところ、課題としているところを意識してプログラムを組みました。

実践経験の少ない参加者にとって小田先生による質問紙作成のグループワークは大変好評であったし、島村先生の論理的思考の講義は、論文を書く際はもちろんその前段階の意見交換に繋がるものでした。

第3部の意見交換会はこれまでの研究経過相談発表時間とは違い、「意見交換の練習」という目標を掲げて行ったため、目的意識が明確になり、発表者・質問者・司会者がそれぞれの役割を意識した濃密な時間となったと思います。

参加者数が伸び悩むのは、当勉強会が一方向的な講義ではなく、参加者の積極的な姿勢を求めているからなのか、何か運営や内容に問題があるのか、広報がまだまだ足りないのか、検討すべきことはあると思います。今後も貴学会にはご面倒をおかけしますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

文責：山市まどか

